

P3-3-1 若年女性を対象とした HPV ワクチンに対するインターネット意識調査と有効な勧奨手法新潟大医歯学総合研究科¹, 大阪大医学系研究科²山口真奈子¹, 関根正幸¹, 工藤梨沙¹, 安達聡介¹, 榎本隆之¹, 上田 豊², 高田友美², 森本晶子², 田中佑典², 八木麻未²

【目的】日本人女性における HPV ワクチン接種に対する意識と性活動性, 生活環境との関係を明らかにし, 今後のワクチン接種普及のための基礎情報を得ること. 【方法】16歳から20歳のワクチン接種者と非接種者を414人ずつ無作為にインターネット上で抽出し, 同意を得た上で各種設問の回答を得た. 年齢構成は, 接種者の割合に合わせて非接種者を割り付けた. 【成績】回答者の年齢構成の割合は, 16歳10%, 17歳16%, 18歳28%, 19歳33%, 20歳13%であった. 性交渉の経験率は32.5% vs 35.7% (接種者 vs 非接種者) (P=0.507) と有意差はなかったが, 初交年齢は16.6歳 vs 15.8歳 (P=0.008) と非接種者が有意に低く, 経験人数は3.95人 vs 7.04人 (P=0.016), 妊娠経験は6.7% vs 27.7% (P=0.00) と非接種者が有意に多かった. 避妊行動をしている割合は81.5% vs 63.5% (P=0.002) と非接種者が低かった. ワクチン接種後に性活動性が活発になったと回答した接種者はわずか0.5%であった. 生活環境と性活動性において有意差が見られた項目は, 母親との会話の頻度と喫煙の有無であった. また, 接種者・非接種者共に7割以上が子宮頸癌を心配している一方で, 子宮頸癌の原因が HPV であることや, 性交渉によって感染することは, 接種者でも6割近くが知らないと回答した. 【結論】 HPV ワクチンの接種者に比べて非接種者は性活動が活発な傾向があること, ワクチン接種がその後の性活動性に大きな変化を及ぼさないことが示唆された. 一方, 接種者・非接種者共に HPV と子宮頸癌の知識が乏しいこと, 及び性活動性には母親の係わりの重要性が示唆され, 今後のワクチン勧奨には当事者だけでなく母親への啓蒙活動が重要であることが認識された.

P3-3-2 子宮頸癌スクリーニングにおける Hybrid capture II (HCII) と cobas HPV 検査の精度比較金沢医大¹, 富見城中央病院², 国際セントラルクリニック検診科³大阪康宏¹, 前濱俊之², 伊藤富士子³, 笹川寿之¹

【目的】本邦での HCII と cobas HPV 検査の子宮頸癌スクリーニングにおける精度を評価する. 【方法】20~50歳の女性262人(約半数が一般女性, 残りの半数は CIN で追跡中の患者)を対象とした. 書面による同意の後, 子宮頸部のサンプルを Cervex ブラシで採取し, ThinPrep 溶液に保存した. HCII (キアゲン社, 日本) と cobas HPV (ロシュ・ダイアグノスティクス社, 日本) 検査と細胞診を行った. 細胞診異常 (LSIL 以上) と HPV 検査陽性の151例 (57.6%) に対して Genosearch 31 (MBL, 日本) による HPV 遺伝子検索を行った. 【成績】 HPV 検出において HCII は cobas HPV よりも高感度であった (McNemar's Test, $P < 0.05$). HCII と cobas HPV の陽性結果一致率は84.7%で, 不一致は HCII のみ陽性27例, cobas HPV のみ陽性13例の計40例に認めた. cobas HPV のみ陽性例の内訳は HPV16 2例, HPV58 3例, HPV18 1例, HPV56 1例であり, 一方, HCII のみ陽性例の内訳は HPV52 12例, HPV18 1例, HPV31 1例, HPV39 1例であった. CIN2, CIN3 症例で最も頻度の高い HPV 型は HPV52 であった. HCII と cobas HPV による CIN2 検出における感度はそれぞれ100%, 83.3% (McNemar's Test, $P > 0.05$) であり, CIN3 ではそれぞれ100%, 81.3% で (McNemar's Test, $P > 0.1$) であった. cobas HPV 検査で検出できなかった症例は, HPV52 陽性 CIN2 または CIN3 の3例, HPV39 陽性 CIN2 の1例, HPV82 陽性 CIN3 の1例, HPV71 陽性 CIN2 の2例, 未知の HPV 陽性 SCC の1例であり, HCII はすべての CIN2, CIN3, SCC を検出できた. 【結論】 HCII は HPV52 の頻度が高い本邦などの子宮頸癌スクリーニング検査としてより有用であり, cobas HPV は HPV16, 18 型を同定できる点で CIN 管理上有用と考えられた.

P3-3-3 子宮頸がん検診受診率向上への方策—スマートフォンを用いた子宮頸がん検診アプリの開発と職域検診への導入 (第1報) —産業医大広域・発達看護学¹, 産業医大人間情報科学², 産業医大³松浦祐介¹, 吉岡 真², 蜂須賀徹³

【目的】女性労働者の健康支援を目的に情報支援ツールとして子宮頸癌に関するスマートフォンアプリを開発する. 【方法】 iPhone 用アプリと Android スマートフォン用アプリの同時開発をめざして, HTML5 ハイブリッドアプリ開発環境をクラウド上で利用可能にした Monaca (アシアル社) を用いてアプリの開発を行った. Monaca がサポートするハイブリッドアプリ開発フレームワーク Cordova のデバイス API と AngularJS をベースにしたモバイル用 UI の Onsen-UI を利用し, ネイティブアプリと比較して遜色ないアプリを作成した. 【成績】 今回のシステムでは初期設定の画面で利用者の年齢・所在地・子宮頸がん予防ワクチン接種歴・子宮頸がん検診受診歴 (結果) を表示できるようにした. がん検診受診率の向上には細胞診によるがん検診の有効性など子宮頸癌に関する基礎知識が必要である. 子宮頸癌の原因 (HPV 感染), 最近の動向, 検診の内容, 子宮頸癌の症状, 診断・治療法のほか所在地域での検診情報や子宮頸癌に関する様々なイベント情報が入手可能となるように作成した. また, 最後にミニテストで知識の定着の確認もできるようにした. 【結論】 子宮頸がん予防ワクチン業務が停滞しているため, わが国では子宮頸がん検診の必要性・重要性が高まってくることは明らかである. 勤労女性が増加するなか, 我々の以前の報告のように今後はさらに企業のがん予防への取り組みが重要であり, 時代に合わせた検診体制・環境を整備していく必要がある. 最近急速に普及がすすむスマートフォンの活用を考え, まず, 情報支援ツールとして子宮頸癌に関するアプリを開発した.